

やまぐち発 心ときめく  
**文化維新** 第21回 **国民文化祭・やまぐち2006**  
平成18年11月3日(金・祝)～11月12日(日)

「国民文化祭・やまぐち2006」は、県民総参加のもとでの実施を目指しています。  
日頃の活動の中で自発的にPRを行っていただく「文化維新おひろめ☆たい志」として、また個々の事業を支えるボランティアとして、市内でも多くの方々が活躍中です。  
今回は、そうしたボランティアの国民文化祭に対する熱い想いをご紹介します。

**私たちがボランティアとして  
国民文化祭に参加します。**



▲「おひろめ☆たい志」として活躍中の連合女性会のみなさん

連合女性会会長 中務 智恵子

「県民総参加といえば、平成13年の山口きらら博を思い出します。当時、私自身もボランティアとして参加し、多くの感動と達成感を得ることができました。

今回、わが山陽小野田市でもガラス展をはじめとして、国民文化祭の主会場となっているということで、もちろん自分たちも楽しみながら、市外からの来場者に最高のおもてなしを提供し、わがまちを紹介できればと思っています。

みんなで盛り上げ、楽しみ、感動する。またとない市民パワー結集の機会ですので、市をあげて成功させたいと思います。」

【問い合わせ先】 国民文化祭推進室  
(社会教育課内 ☎ 82-1204)

**元気** いっぱい!

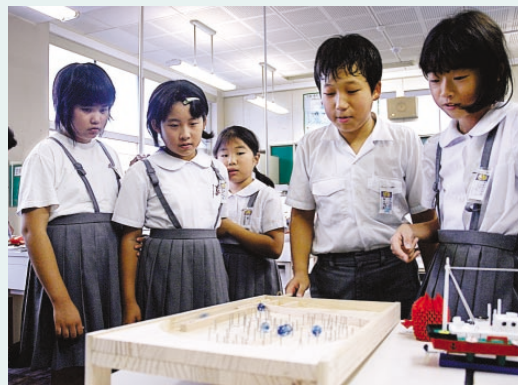
**津布田小学校 夏休み作品展**

夏休みも終わり、校舎には久しぶりに児童の元気な声が戻ってきました。児童はどんな夏休みを過ごしたのだろうと思いながら訪れた津布田小学校では、「夏休み作品展」が開かれていました。会場となった教室には、貝殻とビーズを使って海辺の小さな生き物を描いた夏らしい絵や、小さな部品を丁寧に繋ぎ合わせて作った手作りラジオなど、全校児童一人ひとりが、夏休みに一生懸命作り上げた力作の数々が並んでいました。発砲スチロールと紙粘土を使ってサッカーボール型の貯金箱を作った“サッカー少年”の原暉弘くん(5年生)。発砲スチロールを丸く削り、周りに紙粘土を貼り付けていくという根気のいる作業の末、見事完成した貯金箱は宝物になることでしょう。

時間をかけてひとつの作品を作り上げた経験は、児童にとって大切な夏の思い出となったようですね。



▲自慢の作品を手にした5年生の児童。夏休みの思い出がたくさん詰まっています。



▲ビー玉を弾いて得点を競うゲーム。ビー玉がぶつかる音が楽しそうに響いていました。